

2013年度 ATJ体験記

氏名： F. Y.

卒業年月： 2013年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Brauer College

ATJの期間： 2013年4月 ~ 2013年12月（更新無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語の勉強は2月から始めました。英語圏に行くことが初めてだったのであいさつから主に会話で使える表現などを中心に勉強しました。あとは、大学の授業で使っていた文法の教科書を使って文法を少しだけ復習しました。この教科書はすべて英語で書かれたものだったので、ATJとして学校に行って文法事項を生徒に教えたりするときに同じ表現(文法)を使うことができたのですごくよかったと思います。また、日本語や日本文化にかかわる学習は出発前ほとんどしませんでした。どのような感じで教えているか全くわからなかったため、オーストラリア到着後、生徒が学校で使っていた教科書を借りて勉強しました。少し後悔していることは、出発前に日本の文化についてもっと勉強しておくべきだったと思います。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航関係の手続きは2月から始めました。ビザの申請書類を集めることや、健康診断の予約を取ることに時間がかかりました。また、赴任先の学校の先生と私の間で誤解があり、ビザに必要な学校関係の書類を私ではなくホバートにある事務所に送ってしまったので、その書類が到着してから書類を提出したので自分が予定していたよりもかなり遅い提出になってしまいました。渡航準備をする時は学校の先生にきちんと連絡しておくといいと思います。私のようにぎりぎりではなく、早めに準備を開始するのがいいと思います。

③ ATJとして経験した具体的業務

私は secondary school に赴任したので、授業中の生徒のサポートのほかに、VCE の学生の会話練習やエッセイの添削などが主な仕事でした。また、日本語の先生が授業にこ

られない時の授業やクラスの管理などです。ほとんどの場合は他の科目の先生が監督として来てくださいますが、日本語の先生が課題を残してないことが多かったのでゲームや文化の紹介をしたり、自分で授業を考えてやってみたりしていました。

④ ATJ以外の活動

3ヶ月間くらい同じ町の小学校のATJと一緒に、放課後1時間くらいその小学校の生徒の保護者向けの日本語クラスをしていました。トピックはあいさつや自己紹介、数の数え方、買い物などです。平仮名や片仮名を書けるようになるのが目的ではなく、話すことを目的として教えていました。また、初めての休暇の時に、ホストマザーの勧めで子供向けのイベントのボランティアをしました。

⑤ ホームステイ

一年間で4家族にお世話になりました。どの家族も本当にいい方で本当に恵まれていたと思います。4家族のうち3家族は学校の先生のお家で1家族は生徒のお家でした。初めの家族のうちから学校や町まで本当に遠く毎日1時間かけて学校に通っていました。公共の交通機関がなかったので出かけるときはいつも車で送ってもらっていたので、申し訳なく思うことも多かったです。長期間ホームステイをして気がついたことは、遠慮して自分のしてもらいたいことを言わない限り誰も何もしてくれないので、申し訳なく思う気持ちがあってもわがままなことでない限りお願いするべきだと思います。お願いする内容にもよりますが、ホストファミリーと一緒に解決策を考えてくれるし、会話も増えました。黙っているといいことはないです。また、ホストファミリーとの会話においてすごく苦労したのが会話の内容です。私のホストファミリーは私から話しかけていかないとあまり話を振ってくれるほうではなかったので少し大変でした。趣味の話でもニュースの話でも何でもいいので話してみると結構話を続けてくれることが多かったです。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

ビクトリア州は一日の中でも気温差が激しく、私は1年に4回も熱を出してしまいました。市販の風邪薬を持って行っていたので大丈夫でしたが、風邪を全然ひかない人でも風邪薬は持って行ったほうがいいと思います。空港で止められたことはなかったですが、市販薬の場合は、処方箋などが無いので、何のための薬か英語で書いて箱に張って持って行きました。また、乾燥がすごく、のどが痛くなることもあったので、のど飴やうが

い薬など現地で購入するといいかもしれないです。寒暖の差が大きいので調整しやすい服を持っていくといいと思います。私がいたところはかなりの田舎だったので夜で歩くことはほとんどありませんでしたが、シティーに行ったとき、夜になると薬を売っている人を見かけたりしたので、できるだけ人通りの多い道を歩くなど、注意が必要です。

⑦ 長期休暇の過ごし方

他の ATJ とメルボルンで会ったり、旅行をしたりしました。

Ⅱ. ATJ の感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一番思い出に残っていることは、11 年生の修学旅行について行ったことです。Term3 の終わりに 17 日間かけてオーストラリアの東側をバスで移動しながらキャンプをしたことです。アデレードから北上しウルル、アリススプリングまで行き、周りに何もなくて bush camp をしました。明りが周りにないので星空が本当にきれいでした。そして、グレートバリアリーフでダイビングやシュノーケリングをしました。17 日間バスやテントで寝たり、丸 1 日バスで移動したり身体的に大変だったこともありましたが、本当にいい経験でした。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

ATJ の仕事で苦勞したことは、先生が 10 分から 15 分授業に遅れてきたり、先生がいないことを知らされていなかったりしたことがあり、その対処法に苦勞しました。先生が遅れてくるということが本当に多く、はじめはどうしたらいいかわからずストレスでしたが、「この 10 分から 15 分で自分がやってみたいアクティビティーやゲームをやってみよう」と思うようになり、色々やっているうちに楽しくなってきました。ほとんどの生徒たちはやさしく、私のつたない英語でも一生懸命理解しようとしてくれて、本当に助かりました。辛かったことは、たまに生徒にいやなことを言われたり、馬鹿にされたりしたことです。めったにないことなのですが、やはり辛かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ホームステイ先で大人も子供もすごく早く寝ることに驚きました。小学生のいる家庭に

お世話になったとき、子供は8時にはベッドに行く決めていたのが本当に衝撃的でした。また、大人でも10時くらいには寝る家庭がほとんどでした。そして、次に驚いたことは、生徒たちの帰宅の早さです。オーストラリアの学校の多くは、部活動が盛んではありませんので、補習授業や特別な用事がない限り、ほとんどの生徒たちは4時には学校から家に帰ります。

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

薄型のノートパソコン、足が疲れにくいスニーカー、英語の文法やテキスト、日記帳、バックパック。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

ATJに参加するとなると、ATJ後のことを心配される方がほとんどだと思います。私も参加決定以降も、ATJとしてオーストラリアにいた時も、ATJ後の進路が不安でしたが、今では本当にATJに参加して良かったと胸を張って言えます。ATJ後の就職活動は厳しいのが事実ですが、ATJはただ遊びに行くわけではないですし、私自身この1年で成長したことがたくさんありました。少しでも興味があって、やってみたいと思うのなら、ATJに参加することをお勧めします。

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

就職先は未定ですが、現在就職活動中です。

② 将来の夢

今就職活動を行っているのですが、貿易事務や翻訳などを中心に活動しています。この仕事に関心を持ったのは、派遣先の学校で時々頼まれていたホストファミリーへの手紙の翻訳や、日本人の生徒の成績の翻訳などをしていて、難しいこともあったけれど、やりがいがある仕事だと感じたからです。英語の能力的にはまだまだ勉強が必要ですが、頑張ってみようと思っています。

2013年度 ATJ体験記

氏名： S. A.

卒業年月： 2012年3月 卒業学部・学科： 日本語日本文学科日本語教育専攻

派遣先学校名： Bayside P-12 College

ATJの期間： 2013年4月15日 ~ 2015年4月（更新有）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語の資格を持っていなかったため、TOEICの勉強を少ししていた程度です。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

すぐにビザの申請（私は自分で行ったので全て英語の書類を読むのに時間がかかりました。）をし、住民票の翻訳や健康診断の手配（特定の病院へ行かなければならないので、早めに手配をすることをおすすめします。）などを行いました。

③ ATJとして経験した具体的業務

- ・ VCE の口頭試験の相手やライティングの添削
- ・ 授業中の読み、書き、発音
- ・ 教材作り
- ・ 姉妹校来校時の通訳・世話係

④ ATJ以外の活動

- ・ 学校行事への参加（キャンプ・遠足・卒業セレモニーなど）
- ・ ジャパニーズフェスティバル・日本映画祭

⑤ ホームステイ

1年で2件の家庭にお世話になりました。バス・トイレは共用なのでいつもきれいにし

ておくことを心がけていました。食べ物の好き嫌いは先に伝えておくといいと思います。ただ好きなものを教えるとそればかりが出てくるという可能性もありますが。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

メルボルンは気候が本当に変わりやすいので体温調節が難しいです。季節の変わり目は風邪を引きやすいので注意したほうがいいと思います。保険に入っていると思うので、体調が悪くなったら薬局で薬を買うよりもキャッシュレスの提携病院へ行って薬をもらった方がいいでしょう。

⑦ 長期休暇の過ごし方

チューターをしたり、シティで友達と遊んだりしていました。特に遠くへ旅行へ行くことはしませんでした。たびたび日本から友達が来たのでビクトリア州の観光スポットへはだいぶ行くことができました。とりあえず学校から支給される金額は少ないので、日本にいるうちに貯金することをおすすめします。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

12年生の生徒が「がんばれば、できます」と苦手な口頭試験の練習を何度もがんばっていた事。私自身、いろいろなことが上手くいかない中で彼のこの言葉に何度も励まされました。また、様々な学校行事に参加させてもらったので日本語の生徒や先生方だけでなく、他のスタッフとも仲良くなれた事はとても嬉しかったです。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

内向的で上がり症なため、言葉のよく通じない見知らぬ人と仲良くなるのがとてもプレッシャーで苦勞しました。(たいてい海外へ出て行くようなタイプの人には人見知りではない人が多いと思いますが…) 英語がとても苦手なまま渡豪したので全てが大変でした。特に小学生くらいの子どもたちが話す英語は非常に難しいです。まあ、そんな中でも時間がたつにつれ、そして助けてくれる人のおかげで今は当初よりも気楽に生活できていると思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ゴミをゴミ箱に捨てないこと。学校にもよるのかと思いますが、とにかくうちの学校はゴミが校庭や教室の外に散乱しています。またラップトップを使って授業をするので、気をつけていないと生徒がスカイプをしたり Facebook をしたりしています。私の周りには前向きで自分や他人が失敗しても寛容な人が多いです。

Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

もともと毎日パソコンを使っていたので、自身のパソコンを持っていきましたが学校では学校のものを使っています。あとは、洗濯ネットはあったと便利です。またこっちは夏は冗談じゃないほど暑いのでメントール入りの化粧水やボディソープはスッカリするのによかったです。使い慣れているものがよかったのでいろいろなものを日本から大量に持ってきていますが、大概のものはこっちで買えます。

② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

こっちで過ごす一年を充実させるために、ちゃんとお金は準備していったほうがいいと思います。また、いろいろな悩みを持っている人はこっちへ来たら何かと道が見えてくることもあるので、悩んで留まるくらいなら飛び出してみるといいと思います。

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路（A T J の継続、就職先など）

前年度と同じ学校でもう一年アシスタントとして働かせてもらうこととなっています。

② 将来の夢

オーストラリアに残るか、日本に帰国するかを含めいくつかの進路で迷っていますが、この一年で進む道を決めれたらと思っています。

2013年度 ATJ体験記

氏名： I. A.

卒業年月： 2013年3月 卒業学部・学科：現代社会学部社会システム学科

派遣先学校名： Bairnsdale secondary schools Lucknow primary school

ATJの期間： 2013年4月15日 ~ 2014年4月4日（更新無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

準備期間は、国内旅行をしたりなど、出来るだけ色々な場所を知っていこうと思いました。また、一年間友人や家族にも会えないので、周りの人とたくさん会う機会も作りました。しかし、やはり行く前にもっと英語を勉強しておくべきだと後悔しました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航手続きは代行に頼まず、自分でしました。メディカルチェックやビザ代などが結構お金がかかりました。

③ ATJとして経験した具体的業務

Primary School

LOTEの資金作りも兼ねて、おりがみやカードなど、また寿司ややきそばなどを作りそれを生徒に売ったりしました。その際の準備をしたりしました。

Secondary School

ワークシートの採点や試験監督、また year11.12の生徒に対しては、会話や漢字練習を行いました。

④ ATJ以外の活動

トランペットが吹けるということもあり、secondaryではブラスバンドに所属していました。毎週2回練習があり、月に1.2回は演奏会がありました。また合宿もあったので生徒との距離も近くなり所属して良かったと思っています。

⑤ ホームステイ

私は3軒の家族と出会いました。家族によって考え方も違いますので、臨機応変さが大切だと思います。自分の意見ははっきり言わないと思いや考えは通じないと思うこともありました。遠慮せずに伝えましょう！

あと、ほとんどの家のwifiは使い放題ではないので、必要な時だけ使ったほうがいいと思います。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

本当に乾燥しているので、体の弱い方はオーストラリアへ行く前に病院へ行き塗り薬などももらった方がいいと思います。特に日本のような四季はなく比較的安定した気候ではありますが、朝と夜の気温の差が結構あるのでカーディガンを持っていたりした方がいいかもしれません。私は田舎に住んでいたのが治安面はとくに気にしたことがなかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

タームが終わるたびに旅行へ行きました。私は、タスマニア、パース、シドニー、ケアンズ、ブリスベン、ゴールドコースト、ヌーサ、エアーズロックに行きました。旅行資金は入ってきたお金を全て使いました！旅行を通じて本当に色々な人に出会うことができるのでいける所にはいっちゃいましょう。あと、観光面は少し不便なのでレンタカーを借りるといいと思います！でも、レンタル会社はかなりのんびりされているので気をつけて下さい。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

所属していたブラズバンドのみんなと1週間のバンドツアーへ行ったことです。そこで、本当に生徒と仲良く出来ました。

また、私が回った全てのホストファミリーが私のためにお別れ会を開いてくれて、pandoraというブレスレット、それにつけるカンガルーのチャームを全てのホストファミリーから頂き、また家族ごと思い出のあるチャームをそれぞれ私のために贈ってくれたことです。このブレスレットは本当に宝物です。

日本へ戻る1週間前は本当に色々な感情が込み上げ涙がとまらないと思います。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

辛かったことはホストマザーとのコミュニケーションがうまくとれなかったことです。1度ホストマザーから「もっと何でも話して」と言われたときは本当に辛かったです。ホストによるとは思いますが、これでもかというぐらい自分の意見を言わないと伝わらないときもあります。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ラム肉は本当に週に1度は出ました。今までラム肉を食べたことがなく抵抗があったのですが、食べていくうちに慣れもあり、おいしく頂いていました。あと、カンガルー肉も1度だけ食べたり、オージーフードを堪能しました。あと、雨が降っても傘をささない人が多いです（笑）

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンはプレゼンテーションを作るのに絶対必要でした。また常備薬、化粧品は持って行った方がいいと思います。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

この機会はないと思って、思いっきり楽しんで下さい！！

辛いことや、乗り越えないといけないことはたくさんあると思いますがその分帰ってくるものは本当に多いと思います^^

色々なことに怖がらず挑戦してくださいね☆

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

② 将来の夢

就職活動中です。将来は教員になりたいです。

2013年度 ATJ体験記

氏名： M. M.

卒業年月： 2013年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英文学科

派遣先学校名： Mentone Girls' Secondary College

ATJの期間： 2013年4月～2014年4月（更新無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語の学習やビクトリア州の教育制度について、前任のATJから情報をいただきました。教えていただいたホームページなどで学習しました。前任のATJの方と連絡が取れる環境下であれば、どんどん連絡をとって、自分の担当する学校がどのようなレベルでどのような事を知っておけばよいのか聞くと良いと思います。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

12月に参加が決定し、1月から渡航手続きを開始しましたが、現地からなかなかインビテーションレターが届かず、何度か送信依頼のメールをしました。健康診断は、ビザの申請後しか受け付けてもらえなかったため、日にちを要しました。出来るだけ早く受け入れ校からのインビテーションレターを送ってもらえるようにすると良いと思います。

③ ATJとして経験した具体的業務

7年生～12年生のクラスを受け持ち、会話の練習やテスト作成等がメインの仕事でした。あとは毎週月曜日に行われる漢字テストの採点です。すごく厳しく採点していたため、生徒からは少し嫌がられることもありましたが、先生たちからは「採点はこの子に頼んでおけば大丈夫！」と信頼を寄せられることもありました。

④ ATJ以外の活動

休みの日は何かしたい！ということで、現地のサッカークラブに所属していました。ダンスやヨガに通っていた同期もいました。

⑤ ホームステイ

私はありがたいことに1年間同じ家庭にお世話になることが出来ました。学校には歩いていけるので便利な環境でした。ステイメンバーは自分の他、3人の学生が同居でした。（日本人1人、中国人2人）

今思うと少し限界を超えていたかなと思うのですが、家事やその家庭の仕事など、ほぼ毎日担当が振り分けられ、手伝っていました。

食事は、最初は作ってくれていましたが、日にちが経つと共にあまり用意してくれなくなり、冷蔵庫に食べ物がなかったため、自分で食材を買い料理をしていました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

私が派遣された所は、ありがたい事に、治安はいい所でした。

そのため、日本での注意とほぼ変わらない注意で日常を過ごせました。

一度、ものすごく胃やみぞおちが痛かったことがあったので、AIUと提携している病院へ行きました。保険がノンリミットの契約だったため、診察と処方される薬が無料でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

同期の派遣メンバーと5泊くらいの小旅行に何度か出かけたり、住んでいたところの景色がきれいだったため、散歩を楽しんだりしていました。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ここでしかできないことをしたいと思い、メルボルンマラソンに参加しました。朝や仕事の後に、毎日少しずつ走り、当日は6時間以上かかったけど完走できました。また7年生のキャンプに引率で参加したこともとても良い思い出です。キャンプ等学校行事に参加することによって、生徒との距離がぐっと近くなるので、どんどん参加してください。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

ステイ先での家事やホストのビジネスの手伝いが、どんどん自分の仕事になっていき、苦勞しました。明日の授業の準備などで忙しい時もおかまいなしに割り当てられ、ホストマザーの仕事の手伝いをさせられることも、本当に毎日のようでした。置いていただけることは心から感謝していますが、少なからずストレスがたまりました。派遣先の先生に相談をして話し合いを持ち、その時は改善しましたが、すぐに元に戻りました。我慢するか家庭を変更するかの選択肢だったが、wifi の環境を優先し、変更しませんでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

学校は授業が終われば、職員も皆すぐに帰る。残って仕事をしていると、鍵がかけられないので早く帰ってくれ、と言われたことです。

また今まで耳にしていた英語と発音がまるで違うので、最初はとまどいなかなか聞き取れませんでした。でも3か月もすれば慣れるので、始めはあまり気にせず、周りに打ち解けることを目標にしていると良いと思います。

あとは思いの外、物価が高くて、驚いたことくらいです。

Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

情報環境について

パソコンは持って行き、テストを作成したり、日本の情報を見たりしました。

携帯は、 아이폰を携帯会社とつなげずに持って行き、現地でラインを使って日本と連絡を取ったりしていました。現地での連絡は、プリペイドの携帯を買って生活をしていました。ステイ先が wifi 使い放題な環境だったため不便なく過ごせたが、wifi の環境が整っていない家庭も多くあるので、全てがこの通りとは言えません。

紫外線対策

紫外線がとても強いので、日焼け止めは沢山持って行くことをオススメします。やはり Made in Japan の日焼け止めは格別です！あとは、メルボルンにはダイソーやアジアングロサリーなどもありますので、お金さえ出せばほとんど何でも手に入ります。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

もし、あなたがATJに参加を迷っているのなら、迷わず行ってみるといいと思います。日本ほど、何もかもが整備された国は少なく、いろいろな事で不便を感じると思いますが、帰国してみると、これほど整備してなくてもいいのではないかと感じることもあると思います。多分、不便を日常にすることで、順応力がついていったのだと感じています。

また、慕ってくれる生徒との思い出も、心に深く残っています。

上司から「あなたみたいに生徒達の中に、おかまいなしに入って行った日本人は見たことがない。」と言われた時はとても嬉しかったです。割とオープンな自分の性格でいろいろな国や、人の中でも、やっていけるのでは？と言う自信になりました。

上司からは名前ではなく「オイッ！」と呼ばれ、上司（割と年輩）のことは「ジイッ！」と呼ぶようなこの関係も、オーストラリアなら良いのかな？と感じています。笑

IV. 進路

① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）

まだ決まっていませんが英語を使うアルバイトを探しています。

② 将来の夢

ATJに参加し、教師という職に魅力を感じています。しかしオーストラリアへ行って少し自分の英語に自信が持てるようになったので、昔からの夢を追いかけバッチリと掴みたいと思います。

2013年度 ATJ体験記

氏名： N. M.

卒業年月： 2013年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Sale Primary School

ATJの期間： 2013年4月17日 ~ 2014年4月4日（更新無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

出発までの期間で私が準備したことは、日本文化を英語で説明することです。例えば日本の伝統的な建築物（お寺、神社、観光名所）についてです。私は小学校に派遣されたので、このことは学校の授業内で必要ではなかったのですが、現地の方との会話でとても役に立ちました。日本文化について聞かれることは簡単な質問から、どのように答えるべきなのか少し悩む質問まで多々ありました。例えば日本の人口、日本の天皇の日本での役割・仕事について、日本の気候（夏の最高気温・最低気温・雪）、地形（山・平地・海岸・盆地・谷が多いのか）・歴史（原住民の人種、人種差別、終戦記念日）などを聞かれました。日本についての知識が多いほど、良いと思います。

③ ATJとして経験した具体的業務

私は小学校で一年間アシスタント業務を行っていました。1年生から6年生の日本語の授業では、主にアシスタント業務をしており、prep（日本での幼稚園年長）の日本語は私が担当していました。

アシスタント業務は主に授業時間以外の準備でした。授業前には授業で使用するワークシートを制作したり、アクティビティに使うものを用意・制作したりしていました。授業後は日本語教室内の片付け、次回の授業準備のために鉛筆などを交換したり削ったりし、小テストの答え合わせなどを行っていました。授業時間内は日本語の発音や、日本語に自信がない生徒のサポートを行っていました。prepは1クラス15人ほどが3クラスありました。prepの授業は週に一回30分、担任の先生の付き添いのもとで行っていました。

④ A T J 以外の活動

あちらではアフターファイブが充実していると思います。私は学校以外の活動で地元のテニスクラブで週三回試合に参加していました。私の住んでいた町には、テニスクラブだけでなくバドミントン、ダンス、バスケットボール、ブラスバンドのグループもあるそうです。地域のコミュニティに参加することで、友人が増え楽しい時間が過ごせました。またリフレッシュすることができました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

健康面で注意すべきことについて

私はファームにステイしていたことがありました。そこではエアコンディショナーがなく、暖炉だけでした。そのため家は私が想像していた以上に寒かったです。暖かい服を持っていくことを忘れないでください！

治安面について

私の住んでいた地域の治安は悪くはありませんが、夜歩くのはおすすめしません。私が住んでいた町はバスもトラムもないので、移動はほとんどホストファミリーが運転してくれる車でした。日中の移動は自転車または徒歩で可能ですが、日が暮れると車でしか移動しませんでした。私のように移動手段が車しかない方は、遠慮せずにホストファミリーに頼むべきだと思います。

Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

私が特に役に立ったと思うものは、自分の趣味であるテニス用品です。気分転換のための時間はとても大切だと思いました。リラックスができ、また友人もできるのでご自分の趣味の用品は持っていったほうがよいと思います。それ以外にパソコンを持っていました。

② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

私は A T J に参加して、人に何かを教えることの楽しさを感じることができました。それだけでなく、貴重な友人を得ることができました。

もしあなたが教育や海外の生活に興味があるならば、ぜひ挑戦したほうがよいと思います。

す。私は日本以外の教育現場を見てみたいと思ったため、ATJ参加を希望しました。英語力に自信がありませんでしたが、面接も無事に通過し、現地でもなんとかやることができました。面接の前に学内の英会話練習を受けました。こういった学内のプログラムもどんどん利用しほうがいいと思います。

海外で日本語を教えるということは、すべての人が経験できることではない、貴重な経験です。私はこの体験を通して、得たものがたくさんあります。あなたがATJに参加する目的、目標があるのならばぜひ挑戦するべきだと思います。

IV. 進路

- ① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）
- ② 将来の夢

私は教員免許を持っているので、これから教員採用試験を受ける予定です。またオーストラリアで日本語を教えるために必要なIELTの点数を取得できたら、オーストラリアで日本語教師を目指そうと思っています。

2013年度 ATJ体験記

氏名： I. A.

卒業年月： 2013年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Ivanhoe Grammar School

ATJの期間： 2013年4月15日～2013年12月10日（更新無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語・日本語・日本文化に関わる学習）

特にこれと言ったことはしませんでした。TJFL プログラムに参加した際に使用した教材や資料を見返したり、折り紙を練習したりしました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

ビザ申請のために必要な証明書を役所へ取りに行ったり、指定の病院に健康診断を受けに行ったりしました。健康診断に関しては、病院によって費用や検診の実施曜日が違っていたので、事前に直接病院に問い合わせる予約状況や結果が出るまでにかかる日数等を確認しておくと思いいます。また、ビザ申請の書類に不備があったりすると、現地の事務所と何度かやり取りをしないといけない場合もあるので、ビザ申請の準備は早ければ早いほど良いと思います。

③ ATJとして経験した具体的業務

派遣先の学校は幼稚園～高校までの一貫校でした。高校3年生との会話練習が最優先だったので、その練習がない時間に授業に参加していました。中学校・高校では、授業内で教科書の音読をしたり、授業時に実施した漢字テストの採点や作文の添削等をしていました。また、文法の練習問題やリスニング用の音源を指導教官の先生と作成したりもしました。小学校は文化を中心とした授業で、切り絵や塗り絵をしたり、おにぎりを作ったりもしました。一斉に活動の内容を説明した後、複数のテーブルに分かれて児童個人で作業をすることが多かったため、ヘルプを必要とする児童と一緒に作業を進めることもありました。

④ A T J 以外の活動

友達とヨガへ行ったり、語学エクステンジに参加したりしていました。また、休日にはワイナリーへ行ったり、カフェ巡りをしたりして過ごしていました。少し遠出の日帰り旅行へも行きました。友達の派遣先の学校が行った日本語キャンプにもアシスタントとして参加させてもらいました。

⑤ ホームステイ

私は、全部で3つの家族にお世話になりました。どの家族も本当に親切で、毎日楽しく過ごすことが出来ました。連絡をこまめにとること、思ったことや言いたいことはなるべく言葉で伝えるよう心掛けていました。また、こんなこと聞いても良いかなあと思うことでも、とにかく何でも聞いて解決するようにしていました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

一日の気候の変動が激しいため、いつでもすぐに羽織れるものと傘は常に持ち歩いています。また、風邪薬等薬一式は日本から持って行っていたので、現地で調達することはありませんでした。派遣先の学校周辺や滞在先が比較的治安の良い所でも、あまり夜遅くに一人で ترامや電車等に乗らないようにした方が良いと思います。もし、そのような状況になった際は、なるべく車掌さんの近くの車両に乗る等した方が安全だと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

ターム毎に2週間あるいは3週間の休暇がありました。一週間ほど、友達のホストファミリーと旅行に行ったり、ブリスベンに住んでいる知り合いに会いに行ったりしました。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

やはり高校3年生との会話練習です。行った当初は台詞の暗記テストのようだった会話練習が、だんだんと自然な会話になって行き、いつもとは違う質問の仕方や言い返しをしてもきちんと理解して答えられる、その過程を見られたこと、それに携われたことが非常に嬉しかったです。まさに、ATJプログラムでしか出来ない経験だったと思います。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

年齢が下がれば下がるほど、子どもたちの言っていることを聞き取るのが難しく、また私の言っていることを理解してもらうのに時間がかかりました。授業内での子どもたちの叱り方にも頭を悩ませましたが、先生の対応を見たり、授業後にどうしてそのような対応をしたのか聞いたりしました。叱り方や褒め方については、現場でしか学べないことばかりで、非常に興味深く、その都度たくさんの発見がありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

洗濯は一週間に一回とあまり頻繁にはしないと思っていましたが、どの家庭もほぼ毎日していたことが意外でした。また、よく聞く話ですが、洗剤の泡がついた食器を濯がずにそのまま置いていくという習慣は、お世話になった家庭3つとも共通していました。

III. ATJ参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持参しました。生活に必要な物はたいてい現地で調達出来ますが、薬一式は日本から持って行きました。向こうで必要にならなくても（それが一番ですが）、持っているだけで精神的にも安心出来ると思います。また、常に鞆に入れておけるような小さめの Thank you カード（和柄のメモ等）はお礼やちょっとしたメッセージを残す際、非常に役に立ちました。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

心配なことや不安なこともあると思いますが、たいていのことはきっと何とかあります。

また、指導教官の先生をはじめ学校のスタッフやホストファミリー等、皆さんの周りにはいつも力になってくれる人たちがいるはずです。とにかく目一杯、精一杯楽しんで来て下さい。

IV. 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

帰国後は、教育機関で働いています。

② 将来の夢

どこであれ、どんな形であれ、日本語教育、そして言語教育に関わってたいです。